

003655744 WPI Acc No: 83-15723K/07

XRAM Acc No: C83-015293

Decontamination of radioactive-polluted tool by crating with peelable
paint which is subsequently removed

Patent Assignee: (DAIT) DAITO KOGYO KK

Patent Family:

CC Number	Kind	Date	Week	
JP 58000799	A	830105	8307	(Basic)

Priority Data (CC No Date): JP 8197568 (810625)

① 日本国特許庁 (JP)

② 特許出願公開

③ 公開特許公報 (A)

昭58-799

④ Int. Cl.³
G 21 F 9/28

識別記号

⑤ 庁内整理番号
6422-2C

⑥ 公開 昭和58年(1983)1月5日

⑦ 発明の数 1
⑧ 審査請求 有

(全 2 頁)

⑨ 放射性汚染治工具等の除染方法

横浜市中央区本牧一丁目131番地

⑩ 特 願 昭56-97568

⑪ 出 願 人 大東興業株式会社

⑫ 出 願 昭56(1981)6月25日

横浜市南区南太田町一丁目117

⑬ 発 明 者 栗原貢

番地

明 細 書

1. 発明の名称

放射性汚染治工具等の除染方法

2. 特許請求の範囲

原子力発電所内で使用された治工具に可溶性ペイントを塗布し、乾いてからペイントを剥がすことによって汚染物質を除去することを特徴とする放射性汚染治工具等の除染方法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、放射能によって汚染された治工具等の除染方法に関するものである。原子力発電所内で修繕や整備に当たる作業員は、手袋や治工具を用いて作業をするが、これらは放射能により二次的に汚染されるのが普通である。このうち作業用手袋等の固体汚染物はドラムカンに詰められ、所定使い捨ての形を採っている。しかしスパナ等の治工具をその都度捨てるのは不経済であるため、高圧水やサンドブラストにより、除染して再使用している。ところが今度は除染に使用した高圧水やサンドの処理を考えねばならない。また除染作

業の労力、設備もばかにならない。

そこで本発明は、前述の設備を必要とせず、手軽に除染できかつ最終的な処理も簡単に行なえる除染方法を提供せんとする。スパナ等の汚染は、作業中にパイプやタンクからの汚染物質が付着したり、或いは空中からの放射性チリが付着して生ずるが、本発明はこの点に着目してこの問題を解決した。以下添付図面に従ってその実施例を詳述する。

治工具の例として第1図に汚染されたスパナ1を示した。本発明は、このスパナ1に可溶性ペイント2を塗布し、乾いてから第2図に示すようにペイント2を剥がすものである。第3図に拡大して示すようにペイント2を剥離する際その内面には汚染物質3が付着するから、スパナ1は再び使用可能となる。少々汚染度が高レベルでも、簡便工程を3回繰り返せば許容値以下に除染されることが、実験により確認されている。可溶性ペイントとしては、クリパック(商品名)として市販されているものが好適である。これは塗料の如く刷

毛や繊維等で簡単に除去することができ、乾いた後はテープ状に剥がすことができる。剥離後のペイントはドラム缶に詰めて廃棄すればよい。使用箇所によってペイント2が切れる虞れがあるときは、第3図に示すようにペイント2内に補強繊維4を混入させる。この繊維4には、普通の包帯やガラス繊維が使用できる。

以上のように本発明の除染方法によれば、特別な設備を必要とせずに容易に除染できるのみならず、使用後のペイントも高圧水やサンドに比べれば簡単に処理できる利点がある。更に、汚染物質はペイントに全て付着しているから、除染作業に放射性ナリが浮遊することもない。

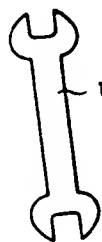
4. 図面の簡単な説明

第1図はスパナの平面図、第2図はペイントの剥離状態を示す斜視図、第3図は除染状態の拡大図である。

- 1…スパナ、2…可塑性ペイント、3…汚染物質、
4…補強繊維

特許出願人 大東興業株式会社

第1図



第2図



第3図

